

教育と人生を学ぶ

⑧



NPO法人くだけかけ会代表
和田重良

1948年小田原市生まれ
くだけけ生活舎での共同生活
(人生科や農作業)をとおして、
青少年や家庭の生活にさまざま
なメッセージを送っている。

「魔法の葉」ってありますか？

「愛言葉」よかったね」を どのように使うか



南足柄あんしん講座

しあわせの芯を作る

『愛言葉』掛けの目的はしあわせの芯を作ること
です。

「くだけかけ会」では「よかったね」「よく来たね」
の『愛言葉』をかけようと言っています。自分の心
に問いかける「三つの鍵」と人に語り掛ける『愛言

とか「大安心」(ほんとうのあんしん)というものです。
争いや不安の入りこむ余地のないところでは
そんなところがあるのか?と思うのですが、とに
かくそう生きてみることを提唱しているのです。

子どものしあわせも、自分のしあわせも表面的な
ものではないものを味わってみようというのがしあ
わせの芯を作る目的です。

いつでも、どこでも

「よかったね」という『愛言葉』は次へ続く、中
へ広がる楽しい世界です。

家庭の生活や教室では何より大切なのはよい雰
気を作ることです。

何でも、どんなことでも「否定」から入る人がいま
すが、そういう人の周囲はトゲトゲと暗いものです。

一方、「肯定」から入る人の周囲はやわらかく明
るいのです。

最近、若者も年寄りも子どもでさえ「孤立」して
いる寂しい人が増えています。その背景には自己否
定というものがあるのです。自己否定に陥っている
若者に出会うとこちらの胸までしめつけられるほど
辛くなってしまう。

中には、子どもの頃から親から愛情の代りに無視
や虐待を受けて来た人もいて、とうてい人を信じら
れなくなつて、自分にも人にも攻撃的にならざるを
得ないような人もいます。

小さい頃から、明るくやわらかくあたたかい雰
気で過ごせることはとても大切なことなのです。

「肯定」が生み出す明るさ、やわらかさを伝え、
作り出すのが「よかったね」の『愛言葉』です。ど
こでも、どんな時にもいろいろと上手に使ってみて
下さい。きつとよいものが生まれて来ます。

人生を愉しく生きる

ほくは今、今まで生きてきた自分の人生の中で何
を求めて生きてきたのかを小さな本にまとめてみよ
うと思つて書いています。(P10参照)

65才の誕生日に間に合うように書きはじめたので
すが間に合いそうにないので、今度の交流会3月2
日までは出版したいと考えています。

そこで、出てきた言葉は「いのちの満足」がテー
マですが、「快く生きる」ということと「楽しさを
生み出す」ということと「悦びに至る」という三つ
のものです。

どんなに立派なよさそうなことをしても快くない
ものはどこかが間違つているのです。

そう思うと「快さ」は単なる感覚ではなくて正し
く生きるという一大テーマを含んでいるのですね。

また、楽しさを生み出すことが生活の中でとても
大切で重要だと知つたのです。

子ども時代に楽しさを失つた人たちに何を伝えた
らよいか?それで楽しさを生み出すということがほ
くの課題となつたのです。

例えば、ほくはどんな状態でも食事の時には一番
に「おいしい」と声を発する役をしました。そうす
ると、食卓はいっぺんに明るく楽しい場となります。

小さい頃に、脅されて育つと困難苦勞をのり越え
る力がつくかと言つとその反対にへんな力みが身に
ついてしまい、ツツパリになってしまうのです。

人生を「楽しみを生み出すもの」だと位置づけた
らとても愉しく生きることができるようになります。

不平不満だらけで生きていては愉しくないのです。
人と争ふことばかり考えたらもつと愉しくないの
です。

自分の心にも呼びかけよう

快く生き、楽しさを生み出すと人生はそれそのま
ま「悦びに至る」という仕組みになつていきます。

結局、悦びとは何かと言つと、「くだけかけ会」では
「よき人に出会う」ということだとか、「不可分一体
のいのちの世界」に気づくというようなことです。

そのために、「三つの鍵」(ケチな根性はいけない、
イヤなことはさけないで、ヨイことはする)を自分
の心の内ポケットに入れて時々見直してみることを
おすすめしたり、「よかったね」の『愛言葉』を掛
けてみようと思案しているのです。

どちらも自分の心に呼びかけることが出発点とな
っているのです。

人間の心はどういうところでありしあわせを感じるの
でしょう。

自分の状況が「めぐまれてる」と思つた時でも
あるかも知れません。しかし、もつと深く考えてみ
ると「今、おかれてる状況が掛替えのないものだ」
とわかつた(受けとれた)時にしあわせを感じるの
でしょう。

少し「大変」を乗り越えないとそこには出会えな
いのかも知れません。

幸いにして「くだけかけ会」には、年令に関係なく、

ご自分のことで深く悩む人や、子どもや家族のこと
でニッパチも三進も行かなくなつて困つた人や、ご商売
やお仕事で自分を本当に活かしたいと願つてくる人
たちがたくさんいらっしゃるのです。

そういう「大変」をかかえて、尚且つ自分の心に
呼びかけるお題が見つかからない苦しみを味わう時、
初めて神様や仏様や観音様に会おうということがで
きるようなものです。

それと同じように、「くだけかけ会」では「よかつ
たね」の愛言葉に出会うのです。

お母さんが、子どもに大変なことに出会わないよ
うに、苦勞の先回りをして何でもしてあげてしま
うと「自分で苦勞して乗り越える」ことができなくな
つてしまいます。

痛みさえ味わわせないで育つてしまうのを過保
護と言いますが、それは過干渉ともセットになつて
いて、ちつとも自立できない元になつてしまいます。
自立できない人は「よき人」に出会えないで孤独
です。

「よき人」……「よき師」です。

そこに出会えた時、はじめて「よかつたね」の『愛

言葉」の中身に出会えるのだと思います。

丸ごと今の状況を「ありがたく」「ころよく」「気
持ちよく」「あるがまま」を出発点とし、ここをジ
ツクリと味わうのが「よかつたね」です。

「くだけけ生活舎」には「全真堂」という小さな
お堂があります。

その「全真」という意味は厳しい、切れば血の出
るような真剣な内容ですが、ほくは訪れる人に「ま
るごとこころよく」という意味だと説明しています。
ここに坐つてみれば、全てが「よかつたね」なの
です。

12・1月のキーワード

- 人生の宝庫を開く〈三つの鍵〉
- ・ケチな根性はいけない
 - ・イヤなことはさけないで
 - ・ヨイことはする

「よかつたね」の愛言葉は
〈三つの鍵〉と裏表
心の芯を作ります
いつも心の中に
持っています

